TADOKU JUNIOR　せかいのなぜなに神話　★★★☆☆ ふつう　682語

Why the Woodpecker's Head is Red

キツツキの頭はなぜ赤い

Florence Holbrook（1902年の本）　原文そのまま　朗読：April6090

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　人間にすきになってほしいキツツキ。ある日、勇かんなせんしがおそろしい息をはくまほう使いとたたかいますが、矢がまほうのマントにはね返されて……。

One day the woodpecker said to the Great Spirit, "Men do not like me. I wish they did."

The Great Spirit said, "If you wish men to love you, you must be good to them and help them. Then they will call you their friend."

"How can a little bird help a man?" asked the woodpecker.

"If one wishes to help, the day will come when he can help," said the Great Spirit. The day did come, and this story shows how a little bird helped a strong warrior.

There was once a cruel magician who lived in a gloomy wigwam beside the Black-Sea-Water. He did not like flowers, and they did not blossom in his pathway. He did not like birds, and they did not sing in the trees above him. The breath of his nostrils was fatal to all life. North, south, east, and west he blew the deadly fever that killed the women and the little children.

"Can I help them?" thought a brave warrior, and he said, "I will find the magician, and see if death will not come to him as he has made it come to others. I will go straightway to his home."

For many days the brave warrior was in his canoe traveling across the Black-Sea-Water. At last he saw the gloomy wigwam of the cruel magician. He shot an arrow at the door and called, "Come out, O coward! You have killed women and children with your fatal breath, but you cannot kill a warrior. Come out and fight, if you are not afraid."

The cruel magician laughed loud and long. "One breath of fever," he said, "and you will fall to the earth." The warrior shot again, and then the magician was angry. He did not laugh, but he came straight out of his gloomy lodge, and as he came, he blew the fever all about him.

Then was seen the greatest fight that the sun had ever looked upon. The brave warrior shot his flint-tipped arrows, but the magician had on his magic cloak, and the arrows could not wound him. He blew from his nostrils the deadly breath of fever, but the heart of the warrior was so strong that the fever could not kill him.

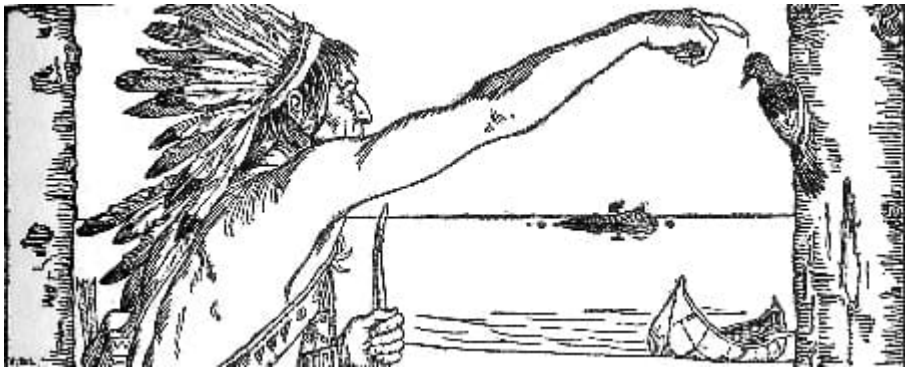
At last the brave warrior had but three arrows in his quiver. "What shall I do?" he said sadly. "My arrows are good and my aim is good, but no arrow can go through the magic cloak."

"Come on, come on," called the magician. "You are the man who wished to fight. Come on." Then a woodpecker in a tree above the brave warrior said softly, "Aim your arrow at his head, O warrior! Do not shoot at his heart, but at the crest of feathers on his head. He can be wounded there, but not in his heart."

The warrior was not so proud that he could not listen to a little bird. The magician bent to lift a stone, and an arrow flew from the warrior's bow. It buzzed and stung like a wasp. It came so close to the crest of feathers that the magician trembled with terror. Before he could run, another arrow came, and this one struck him right on his crest. His heart grew cold with fear. "Death has struck me," he cried.

"Your cruel life is over," said the warrior. "People shall no longer fear your fatal breath." Then he said to the woodpecker, "Little bird, you have been a good friend to me, and I will do all that I can for you." He put some of the red blood of the magician upon the little creature's head. It made the crest of feathers there as red as flame. "Whenever a man looks upon you," said the warrior, "he will say, 'That bird is our friend. He helped to kill the cruel magician.'"

The little woodpecker was very proud of his red crest because it showed that he was the friend of man, and all his children to this day are as proud as he was.



ある日、キツツキが大いなる神さまに言いました。「人間はわたしのことがすきではありません。すきになってくれたらいいのに。」

大いなる神さまは言いました。「人間にすきになってほしいなら、人間にやさしくして、助けてあげなさい。そうすれば、人間はおまえを友だちとよぶだろう。」

「小さな鳥が、どうやって人間を助けられるのですか？」とキツツキはききました。

「助けたいと思っていれば、助けられる日がきっと来る」と大いなる神さまは言いました。その日はほんとうにやってきました。これは、小さな鳥が強いせんしを助けたおはなしです。

むかし、黒い海のそばの暗いテントに、ひどいまほう使いがすんでいました。まほう使いは花がきらいだったので、まほう使いの通る道には花がさきませんでした。鳥もきらいだったので、まほう使いの頭の上の木で鳥が歌うことはありませんでした。まほう使いのはく息は、すべての生き物の命をうばうものでした。北へ、南へ、東へ、西へと、まほう使いはおそろしい病気の息をふきつけて、女の人や小さな子どもたちの命をうばいました。

「みんなを助けられないだろうか？」と勇かんなせんしは考えました。そして言いました。「まほう使いを見つけて、ほかの人たちにしたのと同じように、あいつをやっつけられないか、ためしてみよう。まっすぐあいつの家へ行こう。」

何日ものあいだ、勇かんなせんしはカヌーにのって黒い海をわたっていきました。とうとう、ひどいまほう使いの暗いテントが見えてきました。せんしは戸口に矢をいって、よびかけました。「出てこい、おくびょう者め！おまえはおそろしい息で女の人や子どもたちの命をうばったが、せんしをたおすことはできないぞ。こわくないなら、出てきてたたかえ。」

ひどいまほう使いは、大きな声でいつまでもわらいました。「病気の息をひとふきすれば、おまえなどばったりたおれるさ」とまほう使いは言いました。せんしがもう一度矢をいると、まほう使いはおこりました。もうわらわずに、暗い家からまっすぐ出てきました。そして出てきながら、まわりじゅうに病気の息をふきちらしました。

それは、お日さまが見たこともないほど大きなたたかいでした。勇かんなせんしは石の矢じりのついた矢をいましたが、まほう使いはまほうのマントを着ていたので、矢はささりませんでした。まほう使いは鼻からおそろしい病気の息をふき出しましたが、せんしの心はとても強かったので、病気にまけませんでした。

とうとう、勇かんなせんしの矢入れには、矢が3本しかのこっていませんでした。「どうしたらいいのだろう？」とせんしはかなしそうに言いました。「わたしの矢はよい矢だし、ねらいもたしかだ。でも、どんな矢もまほうのマントはつきぬけられない。」

「さあ来い、さあ来い」とまほう使いはよびかけました。「たたかいたいと言ったのはおまえだろう。さあ来い。」そのとき、勇かんなせんしの頭の上の木にいたキツツキが、そっと言いました。「頭をねらってください、せんしさん！心ぞうではなく、頭のてっぺんの羽かざりをねらうのです。あそこなら傷つけられます。でも心ぞうはだめです。」

せんしは、小さな鳥の言うことに耳をかさないほど、いばった人ではありませんでした。まほう使いが石をひろおうとかがんだとき、せんしの弓から矢がとびました。矢はハチのようにブーンとうなって、ちくりとさしました。矢が羽かざりのすぐそばをかすめたので、まほう使いはこわくてふるえあがりました。まほう使いがにげるより早く、もう1本の矢がとんできて、こんどは羽かざりにまっすぐ当たりました。まほう使いの心は、こわさでつめたくなりました。「やられた」とまほう使いはさけびました。

「おまえのひどい行いもこれでおしまいだ」とせんしは言いました。「おまえのひどい生き方もこれでおしまいだ」とせんしは言いました。それからせんしはキツツキに言いました。「小さな鳥よ、おまえはわたしのよい友だちだった。おまえのためにできることは何でもしよう。」せんしは、まほう使いの赤い血を少し、小さなキツツキの頭にぬってやりました。すると、頭の羽かざりがほのおのようにまっ赤になりました。「人間はおまえを見るたびに」とせんしは言いました。「こう言うだろう。『あの鳥はわたしたちの友だちだ。ひどいまほう使いをやっつけるのを手つだってくれたんだ』とね。」

小さなキツツキは、自分が人間の友だちだというしるしの赤い羽かざりがとてもじまんでした。そして今でも、キツツキの子どもたちはみんな、同じようにそれをじまんにしているのです。

たんご と クイズ　キツツキの頭はなぜ赤い

flowers 花	birds 鳥	canoe カヌー
arrow 矢	cloak マント	bow 弓
wasp ハチ	woodpecker キツツキ	

Q1 せんしの矢がまほう使いにささらなかったのはどうして？

① まほうのマントを着ていたから　② 矢が古かったから　③ まほう使いが空をとんだから

Q2 キツツキはせんしに、どこをねらうように教えた？

① 足　② 心ぞう　③ 頭の羽かざり

Q3 キツツキの頭が赤いのは何のしるし？

① おこっているしるし　② 人間の友だちのしるし　③ まほう使いの仲間のしるし

こたえ

Q1 ①　まほう使いはまほうのマントを着ていたので、どんな矢もつきぬけることができませんでした。

Q2 ③　キツツキは「心ぞうではなく、頭のてっぺんの羽かざりをねらうのです」とそっと教えました。

Q3 ②　赤い羽かざりは、キツツキが人間の友だちだというしるしです。キツツキはそれをじまんにしています。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #22420（Florence Holbrook、1902年）。パブリックドメイン。
挿絵：(1902 edition)（同じ本の初版の挿絵。パブリックドメイン）
朗読（Web版）：April6090（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。